

システム基盤品質の重要性

野村総合研究所 嵯峨野文彦

システムの重要な土台であるシステム基盤の良し悪しは、システム全体の品質に直結する。システムの品質を確保するには、システム基盤を単なる製品群にとらえるのではなく、システム基盤に関わる人材・企画・運用などを含めて広義にとらえるべきである。本稿では、システム基盤に関わる作業が適切に行われているかを診断し、課題を可視化する手法について述べる。

システム基盤の重要性

システム基盤とは何であろうか。多くのユーザー企業では、システム基盤をハードウェアやOSなど、コンピュータベンダーから販売される製品群と位置付けているが、この誤った認識が、業務戦略を支えられないシステムを増やす温床になっている。

ではシステム基盤が担っているものとは何であろうか。企業システムは、業務アプリケーションとシステム基盤とに大別される。そしてシステム基盤とは、企業システムの「信頼性」「安全性」「性能」「拡張性」などを担っている重要な機能である。つまり、システム基盤を軽んじると「業務の変化に追従できない」「信頼性の低い」システムになってしまうのである。

残念ながら、多くのユーザー企業のシステム基盤は品質低下の危機に瀕している。筆者はその理由を以下の2つに大別できると考えている。

ひとつは、オープンシステム化の進展によって、採用するシステム基盤部品が多岐にわたるようになったことである。また、残念なことにハードウェアベンダーがサポートする

機能が少なくなったこともあげられる。その結果ユーザー企業は多くのITベンダー、日進月歩の技術、多様な製品と付き合わざるを得なくなった。すなわちユーザー企業が管理すべき範囲が広がったのである。それと同時にシステムのブラックボックス化が進行しており、さらにユーザー企業のシステム要員の不足もあって、現実に管理可能な範囲は狭まっている。そこから、システム基盤に関わるトラブルが発生することになるのである。

もうひとつは、ユーザー企業においてシステム基盤の重要性に対する認識が弱いことである。その結果として、システム基盤に関わる人材のスキルの伸びに限界が生じている。一部ではあるが、システム要員のスキルの限界により、業務系システムの維持が困難になるようなユーザー企業もある。

システム基盤の管理

システムの品質を向上させるには、その土台であるシステム基盤を正しく管理する必要があるが、残念ながらシステム基盤が正しく管理されているユーザー企業はきわめて少ない。システム基盤を管理するためのタスクには図1に示すものがあり、システム基盤の品

図1 システム基盤管理のタスク			
	基本方針立案・企画	設計・開発	維持・管理
システム基盤 人材・組織	CDP (Career Development Program) 作成	要員スキルの把握	個別研修
システム基盤 資産	IT基盤戦略策定	次期システム基盤計画 IT基盤構築マネジメント	キャパシティプランニング 運用・監視
標準化	アーキテクチャーポリシー 策定	開発標準策定 技術標準策定	システム監査
ITコスト	IT基盤投資計画	RFP (提案要請書)・ RFI (情報要請書) 調達	投資評価 ITコスト把握・適正化
リスク コントロール	セキュリティポリシー作成	セキュリティルール作成・実施 プロジェクトリスク抽出 システムリスク防止	セキュリティアセスメント

質を確保するためにはそれぞれのタスクが正しく行われる必要がある。

ともあれ、システムの品質を向上させる第一歩は、システム基盤の現状を正確に把握することではないだろうか。事実を正確に把握することにより、適切な施策の立案が可能になるはずである。

システム基盤アセスメントサービス

NRI（野村総合研究所）では、システム基盤に関わるタスクが適切に実施されているかを診断し、潜在的な問題点を明らかにするアセスメントサービスを提供している。

このサービスは、図1に示したシステム基盤に関するタスクのそれぞれの達成度を診断

するとともに、抽出された課題に対する今後のアクションプランを提言するものである。本サービスは、次期システム化計画、コスト削減計画、システム基盤組織の運営計画などを策定する際の基礎情報として活用事例が増えている。

システム基盤の強化に向けて

システム基盤が硬直化すると、業務の変化に追従できなくなる危険が増大する。業務の変化が速い今こそ、システム基盤にもう一度目を向けるべきではないだろうか。システム基盤の重要性と位置付けを再確認することなしには、システム基盤の品質を確保し向上させることはできない。